

# 瀬戸内市 「女子野球タウン」認定

女子野球を通じた地域活性化を目指す瀬戸内市が、全日本女子野球連盟の「女子野球タウン」に岡山県内で初認定された。市内では社会人硬式チーム・瀬戸内ブルーシャインズが2023年4月に始動。選手雇用や球場改修など官民挙げての支援、チームの地域貢献が評価された。市は5カ年の事業計画を立て、認定を追い風に市のイメージアップや交流人口増に取り組み。（大橋孝平）

「ボールを最後まで見てバットを振り切るぞ」。昨年12月、市立国府小（同市長船町福里）で6年生を対象にしたブルーシャインズの野球教室があった。西大寺税務署（岡山市東区）とタイアップしたスポーツ振興などに向けた貢献活動。4選手が児童43人にキャッチングとバツティングを指導した。中川りんさん（11）は「教え方が分かりやすく、野球がうまくなった気がする」と笑顔を見せた。

## 中四国リーグV

ブルーシャインズは城東高や学芸館高を甲子園に導いた山崎慶一元監督（66）＝瀬戸内市出身＝と、食品卸・大町（同市長船町東須志）の秋山創一朗専務（32）が、女子強豪の学芸館高と環太平洋大の選手を受け皿を整

## 地元チーム支援 活動評価



野球教室で国府小児童を指導するブルーシャインズの選手

え、活気を呼び込もうと立ち上げた。

メンバー13人は10〜20代。同校OBのほか、県外の強豪校から加わった選手もいる。切れ目のない攻撃と安定した守備が持ち味で、今季から参戦した中四国の女子硬式野球「ルビーリーグ」で全勝優勝を果たし、来季の2部昇格を決めた。

チームの快進撃を後押しするのが地元企業だ。食品卸や製造業といった瀬戸内、岡山市の5社が大半の選手を雇用し、練習時間や試合に配慮した勤務体系を導入。約70社が年間計約1500万円かかる道具代や遠征費を賄い、食事など物資面で支える会社もある。瀬戸内市も市営球場の使用料減免やトイレの新設を手がけ、練習環境の充実を図っている。

メンバー側も支援に応えようと野球指導のほか、子どもの外遊びイベントや交通安全の啓発運動に参加。田中千尋

## 県内初 まちづくりに生かす

選手（25）は「野球ができるのも地域のおかげ。もちろん試合に勝つことで市の名前を全国にアピールし、恩返ししていきたい」と話す。

### 取り組み結実

こうした取り組みが実を結び市は昨年10月末、全国15カ所目となる女子野球タウンに認定された。社会人チームの誕生は県内の自治体で3番目だが、積極的な姿勢で認定は第1号となった。

市は24年度から5年間の事業計画「セトウチシ・マドンナ・ベースボール・プロジェクト」を既に策定。全日本女子野球連盟やチームと連携し、SNS（交流サイト）を通じた「女性が活躍できるまち」としての発信や、野球大会の開催による交流人口の拡大を進める考え。認定記念イベントも計画する。

ゼネラルマネジャーの秋山専務は「地域とのつながりをさらに深め、欠かせない存在になっていければ」、三浦智美副市長は「認定を起爆剤に誰もが住みよいまちづくりを加速させ、定住にもつなげていきたい」と話す。

**Q2** ブルーシャインズが参戦した中四国のリーグの名前は何か。次の三つから一つを選んで、答えよう。

- ①ルビー・リーグ
- ②オレンジ・リーグ
- ③ダイヤモンド・リーグ

**Q3** 記事の中には「交流人口」という言葉が複数回出てきます。この言葉の意味を調べて、書いてみましょう。

過去の問題は  
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由ダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。

# 読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

全日本女子野球連盟の「女子野球タウン」に、瀬戸内市が岡山県内で初めて認定されました。市内では社会人硬式チーム・瀬戸内ブルーシャインズが活動し、自治体や企業の手厚い支援とチームの地域貢献が評価された形です。記事を読み質問に答えましょう。

てい がく ねん  
低学年も  
チャレンジ!

**Q1**

女子硬式野球のチームが活動することで、地域にどんな効果があるだろう。自由に考え、50字ほどで書いてみて。